

## 病院ぎらいのこどもをなくすための研究 —採血・予防接種を受ける幼児の「がんばった」—

看護学科 小児健康看護学 浅利 剛史 講師



### Q. どのような研究をされていますか？

A. 予防接種や採血は子どもが特に嫌がる処置であり、「病院ぎらい」にさせてしまう可能性があります。しかし、それらの処置を子どもなりに意味づけできれば「病院ぎらい」の子どもは減らせるのではないかというのが本研究の着想です。子どもが受けた処置を通じて「自分はがんばった」という感覚を得られれば、達成感が得られたり、次の処置に向けた自信にも繋がると考えました。そこで、がんばったを支援するケア、がんばったを評価する「がんばったスケール」、ケアを教授するための教育プログラムを開発しました。これらを用いて子どもの「病院ぎらい」なくすための取り組みをしています。



### Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 「病院ぎらい」にさせている受診時の出来事は、痛みの伴う穿刺を伴う処置の影響が大きいのではないかと考え、対象処置を採血と予防接種に限定して大人が子どもの処置時の様子を観察して評価する「がんばったスケール」、そして子ども自身ががんばったかどうかを自己評価するフェイススケールを作成しました。また、「がんばったスケール」をもとに有効なケアを熟練看護師の振る舞いを観察することで明らかにしました。その結果、6 カテゴリー、25 のサブカテゴリーから成る、採血を受けた幼児が「がんばった」と実感できるケア方法を作成しました。そして、これまでに得られた研究成果をもとに現在は、学習プログラムを作成しその効果を検証しています。Learning Management System(LMS)、いわゆる Moodle などのプラットフォーム上で学習プログラムを展開できるような環境を構築し、その効果を測定しています。



### Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 結局のところまだ、病院ぎらいのこどもをなくすことはできていません。今後は、ケアをさらに普及し、ケアを受けた幼児が実際に「がんばった」ことを実感し、その結果「病院ぎらい」ではなくなるということを実証していく必要があります。そのための研究をこつこつと確実に進め、子どもの健康に寄与できるように精進したいと思います。

### もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 小児看護学領域 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns\\_syouni.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_syouni.html)

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻小児健康看護学 URL

➡ [https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g\\_ns/ahfmc000000149i.html](https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc000000149i.html)